

文化財を訪ねて

—見てある記—

近年の発掘調査より

堀ノ内遺跡第4次発掘調査

桶川市には建造物や民俗芸能をはじめ数多くの文化財があります。

国指定重要文化財「埼玉県後谷遺跡出土品」や市指定文化財「高井遺跡出土品」「水川神社古墳出土品」などは発掘調査により出土しました。

今回は平成26年度に実施された堀ノ内遺跡第4次調査について紹介します。

堀ノ内遺跡は、市域の東部、大字坂田に所在する遺跡です。これまで昭和55年以来3回の発掘調査が行われ、縄文時代早期の炬穴群、縄文時代中期の住居跡6軒、近世中期後半の遺構などが発見されています。第4次調査では縄文時代中期の住居跡が新たに6軒発見されたほか、方形周溝墓と呼ばれる弥生時代後期から古墳時代前期にかけての有力者の墓や同時期の住居跡8軒が発見されました。

【縄文時代の堀ノ内遺跡】

第4次調査において、新たに6軒の住居跡が発見されたことで、縄文時代中期の

住居跡は12軒となりました。これまで発見された住居跡の配置をみると環状をなす集落の形態であることが推測できます。

遺物としては、住居跡や土壇などから多くの土器が出土しました。その中でも第8号土壇から出土した最大口径65cm、高さ53cmにおよぶ大型の深鉢や、第5号住居跡から出土した凹石に転用された大型の石棒は、この遺跡を特色付けるものです。



▶ 出土した石棒



▶ 壺の底部の様子



▶ 出土した壺

のようにして木の実をくぼみに置いて割る生活道具の凹石に転用されていたのかなどを明らかにすることが今後の課題と言えるでしょう。

【弥生時代後期から古墳時代前期の堀ノ内遺跡】

方形周溝墓については、これまで主に川田谷をはじめとする市域の西側において確認されてきました。市域の東側においては、昭和42年に発掘調査が行われた加納入山遺跡以来となります。また、同時期の住居跡についても市域東側において類例の少ない貴重な発見となりました。さらに方形周溝墓の南東辺の外溝からは、横転した状態でほぼ完形の壺形土器が出土しました。この壺は底の部分に11cm幅で打ち欠かれており、底部穿孔壺と呼ばれるお供え用の壺と考えられています。

堀ノ内遺跡については、現在も遺跡の一部が坂田谷津谷遺跡公園予定地の地下にそのまま保存されています。現地を訪れた際は、我々の祖先に思いを巡らせてください。また、堀ノ内遺跡について詳しく知りたい人は、発掘調査報告書が市立図書館や歴史民俗資料館にありますので、ご利用ください。

特に石棒については、緑泥片岩という、この辺りでは採取されない石材が使用されており、どこから石材を入手したのか、また、本来儀式に使う祭器である石棒が、ど